

研究主題「外国語を通じてコミュニケーションをはかることのよさを実感し、  
進んで表現しようとする児童の育成」

教科領域等 外国語活動  
所沢市立三ヶ島小学校 石井広昭

## I 研究主題設定の理由

私は、本校で4年続けて高学年を担当している。それぞれの学級をふり返ってみると、共通しているのは、年度当初の児童同士のコミュニケーションのぎこちなさやトラブルである。

今年度担任している学級にも、これまでの生活経験や友人関係の個人差などから、友達とのコミュニケーションに対して何らかの困難や不安をかかえている児童がいる。また、一对一の直接的なやりとりでなくても「発言したらみんなから攻撃された」「答えを間違えて笑われた」などの理由から、発言することに消極的になっている児童も少なくない。

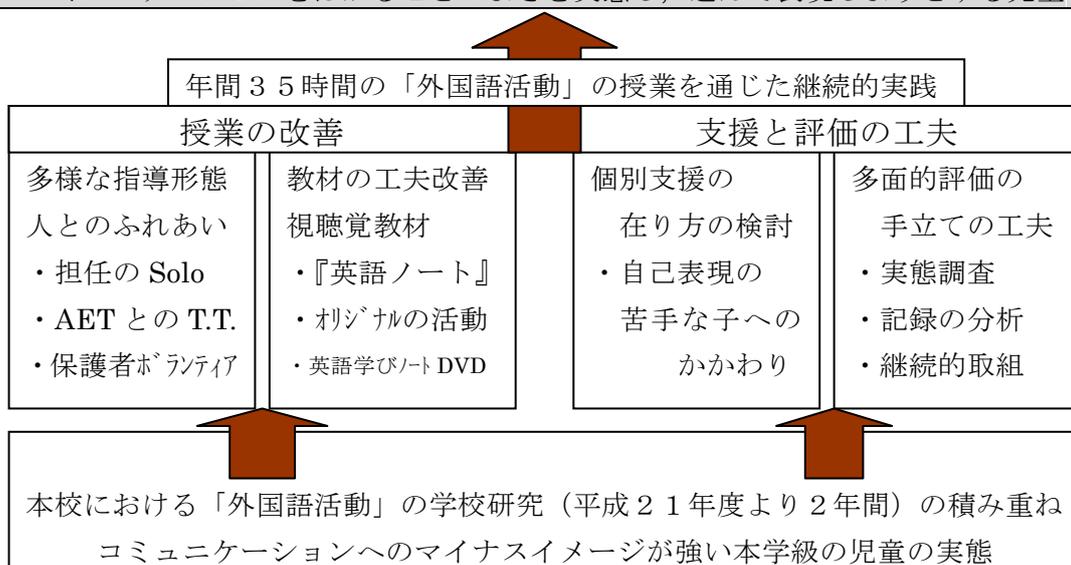
児童は、これまで日本語の世界でコミュニケーション体験を積み重ねてきた。一方、外国語活動は、5年生になってから始まるものである。どの子も同じスタートラインに立って活動が始まる上に、不慣れな外国語を用いるというコミュニケーションをとる上でのハンディキャップも同じである。したがって、外国語活動の時間は、教室に從來から存在している児童間の力関係やコミュニケーション体験の質に関係なく、伝え合うこと本来の楽しさや他者に自分の思いが通じた時の喜びを実感することができる場になり得るのではないかと考えた。

そして、外国語を用いてコミュニケーション活動を積み重ねていくことで「自分の思いが伝わった」という喜びや「聞くことで友達の意外な一面がわかった」という他者への気付きといったコミュニケーションのよさを体感し、これまでの体験で辛い思いをしてきた児童も、少しずつ積極的に他者とかがわったり、すすんで自分を伝えたりしようとする意欲をもつことができるのではないかと、また、もてるようになってほしいと考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の内容及び方法

### 1 研究の方向性（ヴィジョン）

コミュニケーションをはかることのよさを実感し、進んで表現しようとする児童



## 2 研究の仮説

学級担任が、外国語活動の授業においてコミュニケーション活動の場を充実させ、児童にとって魅力あるものにすれば、児童は、自らの聞く・話す活動や交流体験を通してコミュニケーションのよさを実感し、自分の思いをすすんで表現しようとするであろう。

- ア 児童の最終的な活動目標を明確にし、「逆向き設計」で単元計画を作成する。
- イ 授業場面において、一対一のコミュニケーション体験や反復練習の時間を確保する。
- ウ 児童が必要を感じるコミュニケーション活動の場を設定し、参加意欲を高める。

### (2) 記録・分析・評価

- ア 授業の映像記録を活用して、教師や児童のつぶやきを分析する。
- イ 映像を用いた活動中の児童の形成的評価の視点を明確にする。
- ウ 1時間単位の児童の振り返りシートをポートフォリオとして活用する。
- エ 定期的・継続的なアンケートや意識調査を実施する。
- オ 外国語活動に対する児童の意識や意欲の変容を単元ごとに記録する。
- カ 「異性間のコミュニケーション」について6年生との意識調査の比較を行う。

## III 実践事例

### 1 研究の経過

#### (1) 授業実践の記録から



Lesson 2 「ジェスチャーをしよう」  
「Hello Song」の練習風景



Lesson 4 「自己紹介をしよう」  
「英語学びノート DVD」の視聴風景



Lesson 5 「いろいろな衣装を知ろう」  
「買い物ゲーム」の活動風景



Lesson 6 「外来語を知ろう」  
「インタビュービンゴ」の活動風景

## (2) 検証授業指導案

### 第5学年1組 外国語活動指導案

平成22年10月29日(金)第2校時

英語活動ルーム 在籍児童数 37名

授業者 HRT 石井 広昭

AET リチャード・ロケット

1 単元名 「外来語を知ろう」(『英語ノート1』Lesson6)

2 単元について

#### (1) 児童の実態

5年生になって半年あまりが過ぎた。林間学校やザ・パワフル祭りなどの大きな行事を経験する中で、本学級の児童は、目的意識をもって友達に進んで話しかけたり、相手の意見を真剣に聞いたりすることの大切さを学んだ。日常の学校生活や学習におけるグループ活動においても、男女問わず積極的に友達にかかわることができる児童が増えてきた一方で、いつも同じペアやグループで行動し、異性や親しくない同性の友達とのかかわりをもととしない傾向が、一部の男女に依然として見られる。

9月には、国語の時間に外来語についての学習をした。パソコンを使って外来語のふるさと探しを行い、外来語か和製英語かを見分けるクイズに児童はとても意欲的に取り組んだ。新しい活動や学習内容を提示すると「何が始まるんだろう？」と興味をもって、話し手と目を合わせながら話を聞こうとする児童が、本学級にはたくさんいる。

#### (2) 教材観

言葉は、様々な文化や外国語の影響を受けている。英語でさえ、6～7割が外来語でできているとも言われ、その多くはフランス語からとも言われる。

また言葉は、社会の流れに対応して変化し、時代ごとの生活に適したように使用されるものである。

児童が使っている日本語の中にも、多くの外来語が存在するが、そのほとんどは、もとななる言語での発音と違ったり、中には意味の違う使い方をしているもの(和製英語)であったりする。

#### (3) 指導観

本単元で指導上の重点となるのは、以下の2点である。

- ① 自分の思いを伝えるためには、発音に気を配ることが大切であることを児童に実感させること。
- ② 児童が **please** を使って自分の思いを表現するためのコミュニケーション活動を充実させること。

①については、第1時及び第2時の中で、AETによる発話場面の取り上げ方を工夫する。発話の際の口元を見たり、同じ外来語でもカタカナの場合と英語での表記の場合によって言い方を変えたりする等、視覚的にも違いを意識できるような助言や提示を行い、発音や音声への気付きを促す。

②については、第2時及び第3時の中で、児童がAETと外来語を用いた一対一の会話を交わす場面を取り入れる。また、AETにレストラン（フルーツパーラー）の客役を演じてもらい、AETの注文した料理(フルーツ)を児童が手渡すという活動を取り入れることで、前単元で学習した Here you are.の復習も行えるようにしたい。さらに、第4時では、グループワークを取り入れる。欲しい果物を一つずつ持ち寄って一つのフルーツ・ケーキを完成させるなどの作業を通して、グループの友達と協力しながら自分の思いをしっかりと相手に伝えようという意識を高められるようにしたい。

### 3 単元のねらい

- (1) 身近な外来語に興味をもつ。
- (2) 積極的に欲しいものを尋ねたり、注文したりする。
- (3) 日本語と英語の発音の違いに気付く。

### 4 単元の指導計画（4時間扱い）

第1時	第2時	第3時	第4時（本時）
外来語とそのもととなる語とでは、音が違うことに気付き、英語の音に気をつけて発音する。	尋ねられて自分の欲しいものを頼む時の言い方を知る。	レストランやフルーツパーラーで自分の欲しい物を注文する。	注文する言い方を使い、グループでフルーツ・ケーキを作って紹介しあう。
<ul style="list-style-type: none"> <li>●Loud &amp; Clear Voice のための「リレーゲーム」をする。</li> <li>●身近な外来語を探す。</li> <li>●AETの発話を聞いて、『英語ノート1』p.36~37のどの絵か探し、指差す。</li> <li>●キーワードゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おはじきゲームをする。</li> <li>●いろいろな外国の料理とそのふるさとである国名の言い方を知る。</li> <li>●欲しいものを相手に尋ねたり、頼んだりする時の言い方を知り、練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外来語の練習をする。</li> <li>●What do you want? のチャンツを言う。</li> <li>●絵カードを使ってフルーツパーラーやレストランでの注文の仕方を練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●What do you want? のチャンツを言う。</li> <li>●~, please.を使ったインタビューゲームを行う。</li> <li>●自分の欲しい果物を注文し、グループでフルーツ・ケーキを作り、紹介しあう。</li> </ul>
<b>What's wrong?</b> <b>I'm sad. Cheer up!</b> banana, cabbage, lemon, calendar, tomato, cake, milk, soccerball, basketball, glove, gorilla, koala, kangaroo, TV, piano, guitar, doughnut	<b>What do you want?</b> <b>An orange please.</b> <b>Here you are. Thank you.</b> pizza, spaghetti, steak, cream puff, salad, pudding, juice, soup, bibimpa, America, Italy, France, Korea	<b>What do you want?</b> <b>An orange please.</b> <b>Here you are. Thank you.</b> pizza, spaghetti, steak, cream puff, salad, pudding, juice, soup, bibimpa 第1時で取り上げた果物	<b>What do you want?</b> <b>An orange please.</b> <b>Here you are. Thank you.</b> <b>I'm sorry.</b> banana, cabbage, lemon, apple, kiwi, pineapple, strawberry, peach, grapes, cherries, melon

5 本時の活動

(1) 本時の目標 (4 / 4)

- 活動の仕方をよく聞き, 積極的に欲しいものを尋ねたり, 注文したりする。
- グループの友達とすすんでかかわり, 作ったフルーツパフェを紹介する。

(2) 展開

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	A E T の活動	● 指導上の留意点 ◎ 評価の観点と方法
あ い さ つ (5)	1 あいさつをする。 ・ HRT 等にあいさつを返す。 Hello, Mr. ISHII. (Mr. Lockett) I'm fine thank you. And you?	Hello, everyone. How are you. I'm fine too, thank you.	Hello, everyone. How are you? I'm fine too, Thank you.	● 明るく元気にあいさつをし, 活動への意欲を高める。 ● 日直のあいさつを全員で復唱させる。
	2 天気・曜日・月日を確認する。 ・ AET の質問に答える。 It's ~.	Listen to the questions.	How is the weather today? What's the date today? What day is it today? Repeat after me. It's ~.	● 絵カードを見せながら大きな声で復唱させるようにする。
3 本時のめあてを知る。	<b>自分のほしいフルーツを伝えあい, グループでフルーツ・ケーキを作ろう。</b>			
		3 points for good communication	Repeat after me. "Eye contact" "Good listener" "Clear voice"	● 絵カードを提示して, 本時の活動に必要な視点の意識付けを図る。
復習 (7)	4 【Let's Chant】 ・ CD を聞き, <b>What do you want ?</b> のチャンツを言う。 ・ いろいろな食べ物で, <b>What do you want ?</b> のチャンツをリズムに合わせて言う。	Listen to the CD. Repeat after Mr. Lockett. A E T の発話に続いて, 児童と一緒に単語の練習をする。 Let's chant. 児童と一緒にチャンツを言う。一巡したら別の絵カードを黒板に提示する。 One more time.	Look at the picture. Repeat after me. banana, cabbage, lemon, apple, kiwi, pineapple, strawberry, peach, grapes, cherries, melon 食べ物絵カードを見せながら, 児童と一緒にチャンツを言う。	● はじめに CD のリズムに合わせて絵カードを提示し, 発話に消極的な児童への意欲付けを図る。 ● 絵カードを次々に見せながら, テンポよく言うことにより, 児童が飽きずにチャンツを言えるようにする。 ● 絵カードを入れ替えても同じチャンツのリズムで繰り返し練習し, はっきりと発話しようとする意識を高める。

<p>展開 ① (10)</p>	<p>5 【Activity 1】</p> <p>インタビューゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注文する時の言い方を確認する。</li> <li>・インタビューゲームのルールを知る。</li> <li>・インタビューゲームの話形に沿って、役割ごとの表現を全員で練習する。</li> </ul>	<p>Let's review.</p> <p>Look at the blackboard.</p> <p>Today's game is the nterview bingo.</p> <p>Show the demo.</p> <p>Listen and watch carefully</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(パターン①)</p> <p>HRT : Hello.</p> <p>AET : Hello.</p> <p>HRT : What do you want ?</p> <p>AET : A peach please.</p> <p>HRT : Here you are. (ビンゴシートの peach の枠に AET の名前を書き、その枠を示しながら)</p> <p>AET : Thank you.</p> <p>HRT : You're welcome.</p> <p>(パターン②)</p> <p>AET : What do you want ?</p> <p>HRT : A melon please.</p> <p>(AET は自分のビンゴシートを見るが、melon は書かれていないことを確認して)</p> <p>AET : I'm sorry.</p> <p>HRT : OK. Thank you.</p> <p>AET : You're welcome.</p> <p>HRT : Bye.</p> <p>AET : Bye.</p> </div> <p>児童がAET役になって、パターン①の練習をする。</p> <p>AETとの練習をしたい児童を募る。</p> <p>Any volunteer?</p> <p>ルールの補足説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての枠に名前を書くことができたら終了。</li> </ul> <p>→Finished! という。</p>	<p>Look at the card.</p> <p>Repeat after me.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">What do you want?</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">Anooo please.</div> <p>児童がHRTになって、パターン②の練習をする。</p> <p>黒板の大型ビンゴシートを使って、児童代表とデモンストレーションをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●黒板に話形カードを貼り、発話に自信のない児童に視覚的なヒントを与える。</li> <li>●AETとのデモンストレーションを見せる前に、HRTが日本語で簡単に説明をすることを伝え、黒板に大型のビンゴシートを貼る。児童には、自分の知っている単語を押さえて聞くこと、会話の後にHRTがどのような動作をするかに着目するよう指示する。</li> <li>●デモンストレーションでは、ジェスチャーを大きくしてどのようなやりとりをするのかを視覚的にわかりやすくする。</li> <li>●デモンストレーションが終わった後で、自分の聞き取れた単語をもとに、友達どうしてルールについて確認する。</li> <li>●必要に応じてデモンストレーションについての解説を加え、相手に注文された果物が自分のインタビューシートに書いてあった場合と書いてなかった場合に会話の内容が変わることを、日本語で確認する。</li> <li>●AETとのデモンストレーションに積極的に参加した児童を賞賛する。</li> </ul>
--------------------------	---	---	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文する時の言い方を使ってインタビューゲームを行う。</li> <li>・自分のインタビューシートに書いた友達の名前を数える。</li> </ul> <p>6 【Activity 2】</p> <p>グループケーキ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女混合の6人グループを作る。</li> <li>・グループでフルーツケーキを作る手順を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A E TまたはH R Tには必ず質問をする。(名前は書けなくても可。)</li> <li>・半分以上が異性の友達の名前になるように。</li> <li>・一つの枠に複数の友達の名前が入ってもよい。</li> </ul> <p>Have the sheet and a pencil.</p> <p>Stand up.</p> <p>Are you ready?</p> <p>ゲームの結果を確認する。</p> <p>Let's check your sheet.</p> <p>How many names?</p> <p>Good job ! / Perfect !</p> <p>・・・, nice "eye contact". ~,nice "Clear voice".</p> <p>Make a group of 6.</p> <p>Boys and girls are joined.</p> <p>Let't make a fruit cake.</p> <p>A E Tや周りの児童に</p> <p>What do you want? と尋ね、Here you are. と言いながら果物絵カードを渡す。(DEMO)</p> <p>ルールの補足説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一回欲しい果物を注文する。</li> <li>・友達と同じ果物は2人まで注文しても可。</li> <li>・4つ以上の果物を使う。</li> <li>・必ず2人組で行動し、バ</li> </ul>	<p>Good job !</p> <p>Perfect !</p> <p>Let's make a fruit cake.</p> <p>バインダーに挟んだスポンジケーキの絵カードを提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゲームの開始時のかけ声により、活動への意欲と集中力を高める。</li> </ul> <p>◎友達やA E Tとすすんでかわり、積極的に欲しいものを尋ねたり、伝えたりしているか。</p> <p>(コミュニケーションへの積極的な態度) &lt;発言・行動観察&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●インタビューシートにすべて名前を書けた児童だけでなく、“Eye contact”や“Clear voice”など、よりよいコミュニケーションを図るためめあてを意識して活動していた児童も賞賛する。</li> <li>●活動を始める前に、児童を6人グループで座らせる。</li> <li>●デモンストレーションを見せる前に、H R Tが日本語で簡単に説明をする。</li> <li>●作業上の注意として、ケーキが完成するまで使った果物が他のグループにわからないようにすることを日本語で指示する。</li> </ul>
--	--	--	---	--

<p>展 開 ② (20)</p>	<p>・グループで誰がどの果物を注文するかを決める。</p> <p>・AETと会話をして、グループのケーキに必要な果物カードを集める</p> <p>・全員の果物カードがすべてそろったら<b>Finished!</b>と言う。</p> <p>・グループごとに自分たちのケーキに使う果物を伝え合う。</p>	<p>アの友達の言い方を聞く。</p> <p>・絵カードをもらったら、自分のグループのスポンジケーキ絵カードにカードをはる。</p> <p>Let's talk about a fruit cake.</p> <p>Let's order fruit. Are you ready?</p> <p>Wonderful! You are a good team!</p> <p>フルーツケーキの紹介方法をポスターで提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>All : Hello. T 1 : I like apples. T 2 : I like grapes. (以下、一人一つずつ好きな果物を紹介する) All : This is our cake. Thank you.</p> </div> <p>I want to eat it. Wonderful! What do you think?</p>	<p>児童と会話をして注文された果物絵カードを渡す。</p> <p>Here you are. You're welcome. Wonderful! You are a good team!</p> <p>グループで作成したケーキについて、感想を述べる。</p> <p>I want to eat it. Wonderful!</p>	<p>●HRTは、児童の間を巡回し、話し合いがうまくいっていないグループに支援をする。</p> <p>◎一対一の場面でAETなどに積極的に欲しいものを尋ねたり、伝えたりしているか。(基本的表現への慣れ) ＜発言・行動観察＞</p> <p>●HRTは、注文がしっかり言えているか児童のそばで聞いたり、言いにくそうにしている児童のそばに言って一緒に発話したりする。</p> <p>●HRTは、絵カードが早く集まったグループにケーキの紹介方法を提示して練習させ、DEMOとして見せる。</p> <p>◎自分の注文した果物をはっきりと伝えたり、グループでのパフェの紹介に積極的に参加したりしているか。 (コミュニケーションへの積極的な態度) ＜発言・行動観察＞</p> <p>●HRTはグループの発表の評価をAETにも尋ね、児童のアイデアをともに賞賛する。</p>
<p>挨拶 (3)</p>	<p>7 振り返りをする。</p> <p>8 あいさつをする。</p> <p>・HRT等にあいさつを返す</p> <p>Thank you very much. See you next time.</p>	<p>・児童の英語を使おうとする態度面についてよかったことを言う。</p> <p>That's all for today.</p> <p>Good by everyone. Thank you very much. See you next time.</p>	<p>・グループ発表についての感想を言う。</p> <p>Good by everyone. Thank you very much. See you next time.</p>	<p>● 単元の最後の時間であることを告げ、単元全体を振り返ってよくなってきたことを具体的に取りあげてよかったことを言う。</p> <p>●元気よくあいさつをし、楽しい雰囲気の中で終わらせる。</p>



Lesson 6 「外来語を知ろう」 フルーツ・ケーキづくりの活動風景

(3) 「インプット」の活動をより楽しく (11月・Lesson 8 時間割を作ろう)

以下のような手立てを講じ、単元最初の「インプット」の場面で多様な活動を取り入れることにより、児童が繰り返し発話する機会を増やした。

- ① 「曜日之歌」のパリエーション (曜日ごとにパート分け, パート変えて歌う)
- ② 日本語」と「英語」を組み合わせた「教科名チャンツ」  
(例: 国語, 国語, Japanese. 理科, 理科, Science. 算数, 算数, Math...)
- ③ 既習の表現 (I like~) を使って自分の好きな教科を伝える「リレーゲーム」
- ④ ループ練習や全体練習の中での応答 (「I like~.」に対して「You like~.」)
- ⑤ 英語ノート付属CD」「英語学びノートDVD」等の視聴覚教材の活用



「教科名チャンツ」の活動風景

3 実態調査・授業アンケートの結果

(1) 7月と11月の比較より (対象学級: 5年1組 37名)

「初めて会った人に  
すすんで話しかける  
ことができますか。」

回答	人数 (割合)・7月	人数 (割合)・11月
すすんでできている	5 (13.5%)	8 (21.6%)
ある程度できている	19 (51.3%)	18 (48.6%)
あまりできていない	13 (35.1%)	11 (29.7%)
ぜんぜんできていない	0 (0.0%)	0 (0.0%)

「異性の友達に  
すすんで  
あいさつしたり  
話しかけたり  
することが  
できていますか。」

回答	人数 (割合)・7月	人数 (割合)・11月
すすんでできている	11 (29.7%)	20 (54.1%)
ある程度できている	13 (35.1%)	13 (35.1%)
あまりできていない	11 (29.7%)	4 (10.8%)
ぜんぜんできていない	2 (5.4%)	0 (0.0%)

多くの児童が、学習が始まった当初から「外国語活動が好き」と答えていた。しかし「異性の友達にすすんで話しかける」という項目における否定的回答の割合が、11月の時点でも学級全体の10%近くに上っていることを考えると、関心・意欲の高まりをどのように行動に表出させるかが大きな課題となる。また、聞く活動については学習が始まる前から高い意識をもっている児童が多くいたが、外国語活動に関して言うと、語彙や使用表現が非常に増えてきたこと等から、活動への意欲が低下している児童もいるのではないかと推察される。

- (1) 各単元終了時の「ふりかえりカード」における比較（対象学級：5年1組 37名）  
 6月実施（L. 3終了後）・9月実施（L. 5終了後）・10月実施（L. 6終了後）  
 「この学習で、友達や先生とすすんで英語の会話ができましたか。」

回答	L.3（数）終了後	L.5（衣装）終了後	L.6（外来語）終了後
すすんでできた	12人（32.4%）	16人（43.2%）	22人（59.5%）
まあまあできた	18人（48.6%）	15人（40.5%）	13人（35.1%）
あまりできなかった	6人（16.2%）	5人（13.5%）	2人（5.4%）
ぜんぜんできなかった	1人（2.7%）	1人（2.7%）	0人（0%）

「この学習で、英語の発音やジェスチャーになれましたか。」

回答	L.3（数）終了後	L.5（衣装）終了後	L.6（外来語）終了後
よくなれた	9人（24.3%）	16人（43.2%）	15人（40.5%）
まあまあなれた	24人（64.8%）	19人（51.3%）	18人（48.6%）
あまりなれない	4人（10.8%）	2人（5.4%）	4人（10.8%）
ぜんぜんなれない	0人（0%）	0人（0%）	0人（0%）

「活動中の積極性」や「発音やジェスチャーへの慣れ親しみ」については、語彙量や使用表現が多い単元において否定的回答をする児童が多い傾向が見られる。しかし、Lesson 6で行った「フルーツ・ケーキ作り」のように、活動のゴールが具体的で明確な場合には目的意識が高まり、友達とのコミュニケーションにも積極的に取り組めるのではないと思われる。

- (3) 6年生との比較（コミュニケーション活動へ意識や関心・意欲について）

6年生の授業プランの概要は、以下のとおりである。

- ① ウォームアップ：Big or Small・・・絵カードを見て全員で声を出す
- ② 課題解決：バースデイライン（英語ノート2・Lesson 1及び2の復習として）  
一人1枚ずつ持っているアルファベットカードをしゃべらないで順番に並べる
- ③ 一対一のコミュニケーション：仲間集め（英語ノート1・Lesson 4の復習として）  
Do you like～?を使って好きな果物を聞き合い、同じカードを持っている友達を見つける
- ④ 男女でのペアワーク：キーワード・ゲーム（英語ノート2・Lesson 5の復習として）  
さまざまな建物の言い方を練習しながら、キーワードが言われたら、ペアの“こぶし”をつかむ（または、つかまれないように手を避ける）

<アンケートの集計結果>

6年生・・・11月実施・調査対象 34名 5年生・・・11月実施・調査対象 37名

- 「今日の授業における自分自身の取組は、どうでしたか？」

項目	選択肢	5年生 (%)	6年生 (%)
異性の友達に話しかける	しようと思って自分からできた	70.3	38.2
	しようと思ったが自分からできなかった	29.7	41.2
	したくなかったが活動中にはできた	0.0	20.6
	したくなかったので活動中にもできなかった	0.0	0.0

● 「外国語活動で行う男女間（ペアやグループ）の活動は、好きですか。」

選択肢	5年生 (%)	6年生 (%)
とても好き	10.8	2.9
好き	89.2	88.2
嫌い	0.0	8.8
とても嫌い	0.0	0.0

アンケート結果から、6年生よりも5年生の方が外国語活動における男女間のコミュニケーションについて、肯定的にとらえていることがわかった。これは、初めての学習活動であることの新鮮さや週に1度という継続的な取組になったことで、英語により親しみやすくなったりしたことの影響であるといえる。昨年度と比べて自分やクラスの雰囲気が変わったなあと思うことがあるか」という質問に対しても、5年生の方が6年生に比べて「ある」と感じている児童の割合が多いことも、この結果に関連していると思われる。

しかし、気になるのは、活動を1年間継続した6年生でさえ「したくなかったが、活動中はできた」という児童が「異性の友達にすすんで話しかける」という項目において20%以上いることである。授業中の6年生の様子を見てみると、多くの場面では笑顔も見られ、児童は、楽しんで活動に参加しているように見える。しかし、アンケートの結果と照らし合わせてみると、「授業中だから」という一定の拘束力が働いた環境の中で「やらないと叱られるのでは…」という他律的価値観から半ば消極的にやっているのではないかと推察できる。実際に5年生では「(やらないと)先生に叱られると思って、授業中はやっている」といった記述も見られた。

< 5年生児童の感想から（異性間のコミュニケーションを図るように指示が出ることへの違和感に関する記述） >

ほくは、外国語活動は好きです。なぜかという、DVDでチャンツ☆チャンツがあるからです。でも、女子と話すのは好きではありません。ゲームのときとかに先生が必ず「女子にもインタビューしましょう。」というのをやめてほしいです。どうして男子だけではいけないのか、女子に話せと言われると、なんかきょうせーされているみたいで、ピンゴもカードチェンジもちょっとつまらなくなってしまう。体育のバスケでも、できれば男女別にしてほしいです。女子も男子のボールがこわいとかが言っているので、チームを分けた方がいいと思います。

#### IV 研究の成果（の概要）

- 1 コミュニケーションに対する児童の関心・意欲が高まり、積極性が行動に表れてきた。  
→英語に対する抵抗感が和らぎ、「できそう」という見通しをもてる児童が増えた。

児童の授業感想①（4/16）

初めて外国語を言うとき、きんちょうしたけど勇気を出して言ってみました。外国語の学習が終わるとき、ロケット先生が「エクセレント！」と言ってくれました。私は、その言葉を聞いてとてもうれしくなりました。（女子）

すごいきんちょうして、声があまり出なかったけど、リチャード・ロケットさんが「グレイト！」と言ってくれました。ほくは、自信がつかしました。最後に「エクセレント！」が出たとき、とてもうれしかったです。今度は「パーフェクト！」を出したいです。（男子）

児童の授業感想②（10/29）

今日は、女子ともいっぱい会話をしました。おいしそうなケーキができてよかったです。（男子）

私は、大好きなK I W I をたくさん買ってはりました。みんなで協力しておいしそうなケーキができました。（女子）

今日は9人の友達にインタビューできました。次は発表もがんばりたいです。（女子）

- 2 活動時における児童の積極性が高まった。  
→児童が自分の行動目標をもって授業に参加するようになった。
- 3 児童間のコミュニケーションを増やす授業を行うためのポイントが明確になった。

<p>学級担任の授業運営上のポイント①（6 / 1 1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語での指示は、単語やフレーズを使い、短く簡単にする。（一語文や二語文でもOK）</li> <li>・A E Tが活躍できる場をできるだけ増やす。（DEMOでは早めのバトンパスを）</li> <li>・児童が「英語で発話しよう」という意欲を高められる言葉かけをする。 （「英語だけで言ってみようね。」「英語では何というの？」等）</li> </ul>
<p>学級担任の授業運営上のポイント②（6 / 2 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームは説明を短くし、繰り返しのDEMOをやってみせることでルールを伝える。</li> <li>・ゲームにおけるマナーをしっかりと意識させる。（はじめや終わりのあいさつ等）</li> <li>・男女間のコミュニケーションを意識的に行う。（列や川・名簿等を活用して／短く繰り返す）</li> <li>・活動グループは「ペア」または「3人」がよい。（すべての児童の参加率を高める。）</li> </ul>
<p>学級担任の授業運営上のポイント③（9 / 1 7）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習量は活動から逆算して考える。（いくつかの異なるパターンで繰り返す）</li> <li>・DEMOのバリエーションを多くする。（担任とA E T→A E Tと児童→児童同士）</li> <li>・全体での練習の後、児童が個人で練習する時間を設ける。（インプットからインテイクへ）</li> <li>・A E Tの発話の前後の言葉かけにより、発音への意識を高める。 （「今の発音、ちょっと違うの気づいた？」「もう一度口元を見ながら聞いてみて。」等）</li> </ul>
<p>学級担任の授業運営上のポイント④（1 0 / 2 9）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の話題を取り上げることで、外国の文化や英語に対する興味・関心が高まる。</li> <li>・説明の仕方には2通りある。→「明示的説明」と「非明示的説明」の使い分けを。</li> <li>・男女や列など「小分け」にして言わせることで、個人の発話ボリュームをチェックできる。</li> <li>・児童の間違った表現も、学級担任の取り上げ方では「言語への気付き」につながる。</li> </ul>

- 4 教材や指導体制が充実し、多様な活動形態が実現できた。  
買い物用衣服カード・ケーキの台紙／DVD（映像資料）の活用 等
- 5 記録の蓄積による多面的評価の視点をもつことができた。  
映像記録の活用→教師が授業をふりかえる際の視点が広がった。  
1時間ごとのふりかえり（児童）の積み重ね＝児童自身が自己を知る手立て  
→児童が再び読み返すことにより、長いスパンで自己の成長を確認することができた。

## V 今後の課題

- 1 異性間のコミュニケーションに対する意識を高める活動や手立てをさらに工夫する。
- 2 コミュニケーションの苦手意識をもつ子に対しての支援を積極的・多面的に行う。
- 3 外国語活動を充実させるための前提となる1～4年生までの英語活動やコミュニケーション活動について検討し、学校としての指導の系統性を確立する。
- 4 学級担任のスキル（英語運用能力）を向上させる。（県や市レベルでの研修期間も必要）